

奈良県立民俗博物館企画

吉野林業の世界

令和 7 年 9 月 13 日（土）～11 月 16 日（日）

主催・会場：奈良県立美術館

展覧会の趣旨

今回、彫刻家の安藤榮作氏の展覧会にあわせ、吉野林業用具と林産加工用具を通じて、「木」を利用した人間生活を伝える展示を試み、本展では、「吉野林業用具と林産加工用具」の一部を展示します。

この「吉野林業用具と林産加工用具」は、木を伐り倒すことなどに用いる林業用具 616 点、伐り出した木を加工する道具などの林産加工用具 1,292 点、あわせて 1,908 点からなり、2007 年に重要有形民俗文化財の指定を受け、保護措置がはかられています。民俗文化財には制度上、国宝指定がなく、この重要有形民俗文化財は、国宝と同等の価値があります。奈良県には林業の道具がこれだけ多くそろっており、吉野林業の全体像を捉えることができると評価されました。これらの道具は同じように見えても、一点一点、用途にあわせて違っていたり、手作りで繊細に作られていたり、工夫が凝らされているところが見所です。

我々人類は、近年は低価格を実現するために、道具を、規格を決めて、速い速度で大量生産によって作り出してきました。現在の大量消費生活の一つの帰結といえますが、それは、現代ではたまたま、平均的な形、あるいは一定の強度で作ったものが便利なことから享受されているにすぎません。決して、ほとんどが手作りでできている時代の道具が劣っているわけではないのです。道具はその時代の社会の求めに応じて作られ、生産・使用されてきたものでした。

吉野林業に着目する本展示を通じて、我々人類が何を選択し、何を捨ててきたのか、その時代の中の生活の知恵をご覧ください。

出品件数

重要有形民俗文化財 約 60 点

展示構成（予定）

- (1) 伐採の主役 ノコギリ
- (2) 斧とノコギリの使い分け
- (3) 運搬具
- (4) 樽丸
- (5) お椀作りと木地師
- (6) 杓子作り
- (7) 経木作り
- (8) 割り箸作り

本展のみどころ

1. 重要有形民俗文化財「吉野林業用具と林産加工用具」

奈良県立民俗博物館に所蔵される、「吉野林業用具と林産加工用具」は明治～昭和 30 年代を中心に、吉野地方で使用されていた育林を中心とした林業関係用具と、豊富な木材資源を利用した林産加工品の製作に用いられた用具類及び一部製品から成る 1,908 点の資料群です。

これらの資料の展示を通じて吉野林業の技術体系を明らかにするとともに、植林地の拡大によって近世以来継続してきた林の利用が、歴史的、地理的にどのように変

化したのかを具体的に示す資料をご紹介します。

2. 伝承されてきた生活の知恵

林業における技術伝承、と聞くと、それは木の切り方や運び方、あるいはどのような木が商品として適しているのか、ということ、先人から受け継いできたと思われるでしょう。しかし、それだけではなく、伝承の中には、山の神への祈りや、この地で暮らす人々の思想もあります。これらを総合して、林業が成り立っていました。こうした、先人達が伝えてきた伝承の世界の解説を行います。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催	■奈良県立美術館 〒630-8213 奈良市登大路町 10-6 TEL:0742-23-3968/FAX:0742-22-7032 美術館公式ホームページ https://www.pref.nara.jp/11842.htm 【出品協力】奈良県立民俗博物館 〒639-1058 大和郡山市矢田町 545 番地 TEL:0743-53-3171/FAX:0743-53-3173 民俗博物館公式ホームページ https://www.pref.nara.jp/1508.htm
会場	奈良県立美術館 1F ギャラリー
会期	令和 7 年 9 月 13 日（土）～11 月 16 日（日）
開館時間	9:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休館日	9/16(火)、9/22(月)、9/29(月)、10/6(月)、10/14(火)、10/20(月)
観覧料	無料でご覧いただけます。
交通案内	近鉄奈良駅 1 番出口から徒歩 5 分 JR 奈良駅 東口バス乗り場より奈良交通バス「県庁前」下車

▼会期中の催し

会期中の催し （予定）	◆奈良県立民俗博物館学芸員によるギャラリートーク 日時：10 月 5 日（日）、10 月 19 日（日）14:00～ 会場：奈良県立美術館 1F ギャラリー 講師：高橋史弥（奈良県立民俗博物館 学芸員）
----------------	--

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：学芸課長 山本雅美）
〒630-8213 奈良市登大路町 10-6
TEL:0742-23-3968 FAX:0742-22-7032
奈良県立民俗博物館（展覧会企画担当：学芸員 高橋史弥）
〒639-1058 大和郡山市矢田町 545 番地
TEL:0743-53-3171 FAX:0743-53-3173

主な出品文化財と広報用画像リスト

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。

◇必ず下記のキャプションをご掲載ください（かな・漢字表記などへの変更は可、ルビ（ふりがな）を付ける・付けないの判断は各メディアに委ねます）。

◇単体の資料については、適宜トリミングをお願いします。

No.	画像	キャプション	概要
1		重要有形民俗文化財 ノコギリ 奈良県立民俗博物館 蔵	林業の主役の一つとしてイメージされるのは、ノコギリです。その形状は用途に応じて様々です。ノコギリの大きさや長さ、歯の形状や細かさをご覧ください。
2		重要有形民俗文化財 ヨキ 奈良県立民俗博物館 蔵	木を伐り倒すだけではなく、伝統的な意味も残されています。刃に注目すると、細かな線が刻まれています。これは、神へのお酒や食の献饌の意味を持っています。こうした伝承の様子にもスポットを当てます。
3		重要有形民俗文化財 タルマル 奈良県立民俗博物館 蔵	酒樽等に加工するための部材であるクレを寄せ集めて作ったもので、この状態で輸送します。これを作るためにも、クレを隙間なく詰めるなど、技術力を要しました。
4		重要有形民俗文化財 挽物（ひきもの）（碗（わん）） 奈良県立民俗博物館 蔵	碗を作るためには、まずその形であらく切り出した木を削っていきます。いくつかの工程を経て、碗ができあがります。こうした加工をする人たちを木地師と言い、熟練の技を持ち活動していました。
5		重要有形民俗文化財 杓子（しゃくし） 奈良県立民俗博物館 蔵	吉野林業では、杓子作りが盛んに行われました。杓子作りでは木材をただやみくもに加工していたのではなく、木目に沿って切り落としていることが分かります。資料をよく観察すると、加工のポイントが分かってきます。

奈良県立美術館◇〒630-8213 奈良市登大路町 10-6◇TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032◇<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

奈良県立民俗博物館◇〒639-1058 大和郡山市矢田町 545◇TEL 0743-53-3171 FAX 0743-53-3173◇<https://www.pref.nara.jp/1508.htm>